

「輸血療法に係るアンケート調査の報告」

平成30年2月17日

平成29年度長崎県輸血研修会

長崎県 福祉保健部 薬務行政室

本日の内容

1. はじめに
2. 平成29年度アンケート調査結果
 - (1) アンケート概要
 - (2) アルブミン製剤の使用状況
 - (3) 輸血用血液製剤の使用状況
 - (4) 輸血業務の管理体制
 - (5) まとめ
3. 今後の対応方針

本日の内容

1. はじめに

2. 平成29年度アンケート調査結果

(1) アンケート概要

(2) アルブミン製剤の使用状況

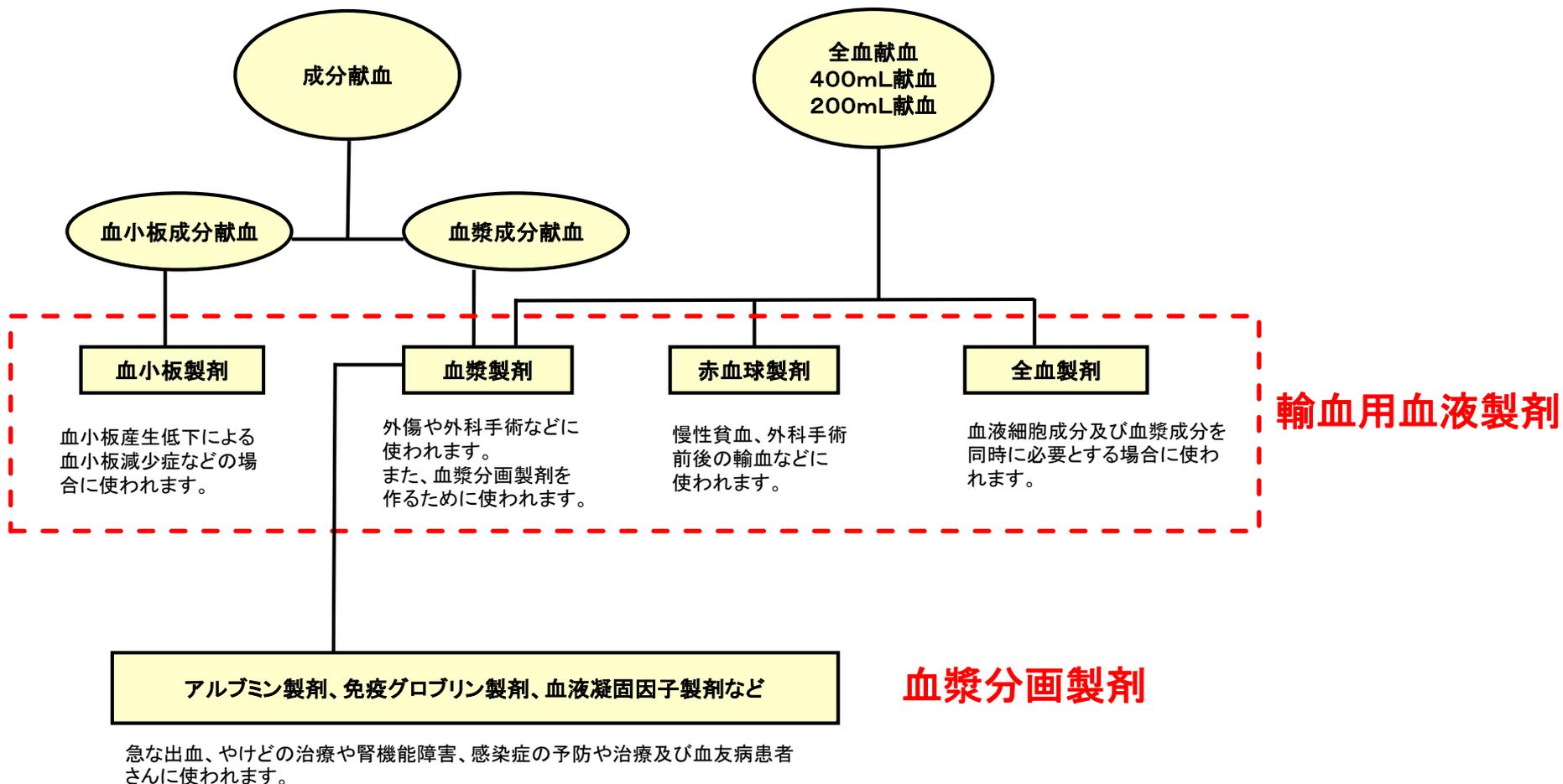
(3) 輸血用血液製剤の使用状況

(4) 輸血業務の管理体制

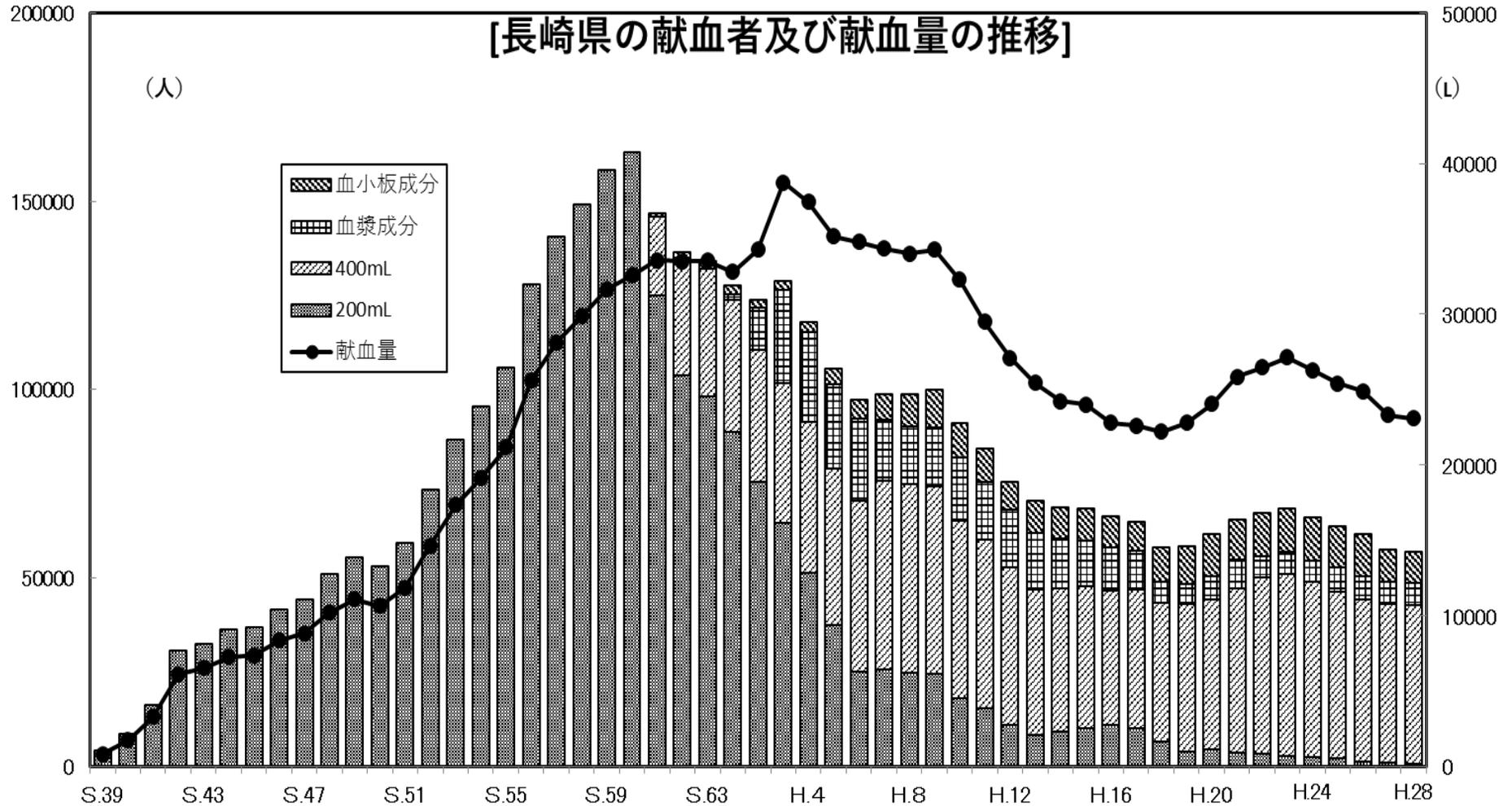
(5) まとめ

3. 今後の対応方針

医療で使われている血液製剤は 善意の**献血**によって作られています。

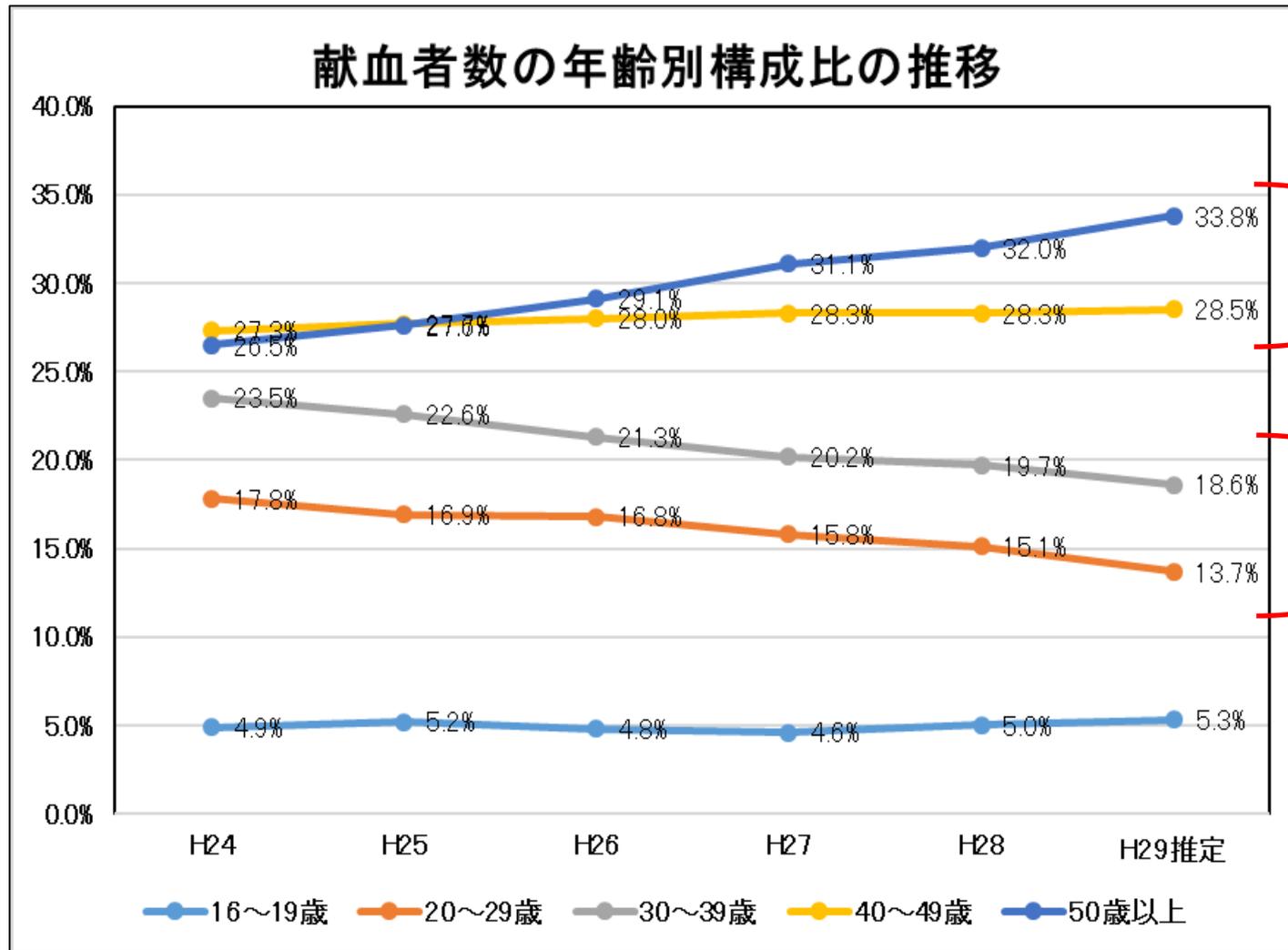


献血事業の現状①



⇒ 献血者数・献血量は減少傾向にある

献血事業の現状②



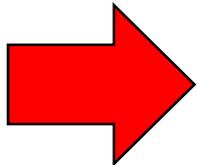
40歳以上の
献血者が約60%

20代、30代の
減少傾向

献血事業の現状③

○献血から得られた血液製剤の約85%は50歳以上の方々に使われている一方で、献血者の約70%は50歳未満の方々であり、この世代の方々が輸血医療を大きく支えています。

○少子高齢化の進展により、若年層の献血者は減少傾向にあり、血液製剤の需要の増大とともに、将来の安定供給に支障をきたすことが危惧されています。

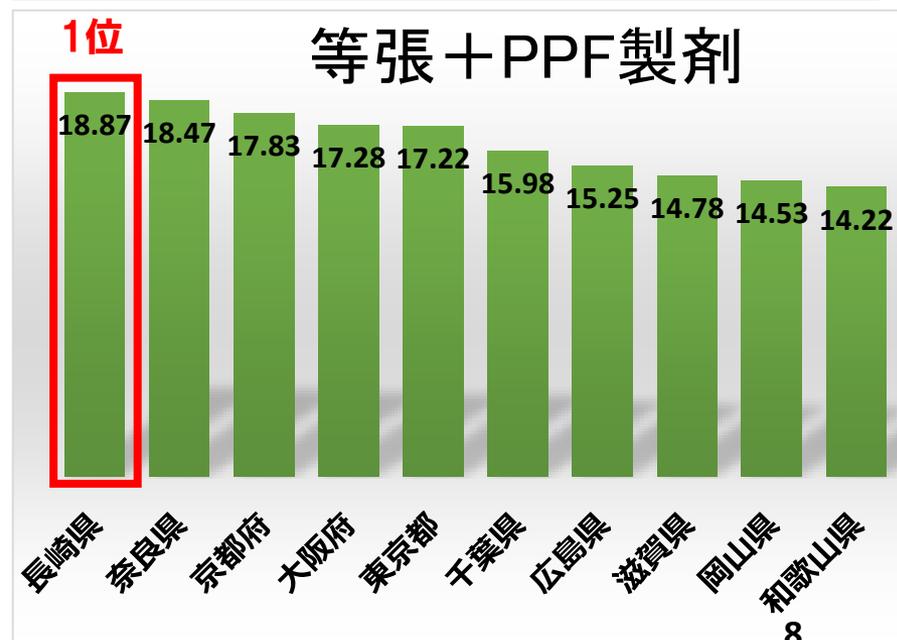
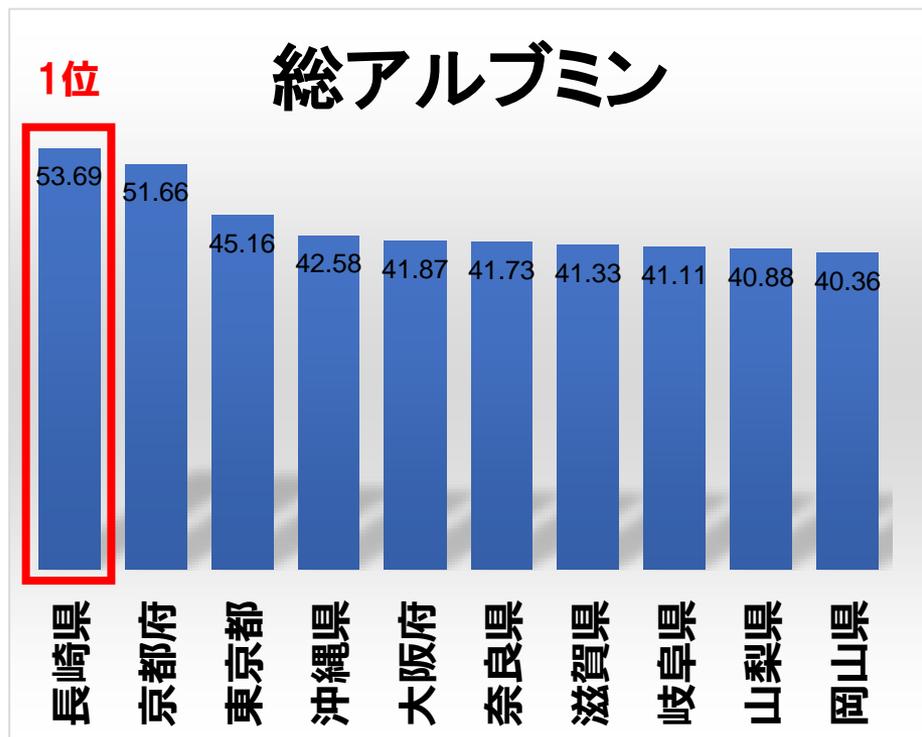


○今後の献血事業を支える**若年層への献血思想の普及**が急務

○医療機関での**血液製剤の適正使用**を推進

平成28年度アルブミン使用都道府県トップ10

1病床あたりの使用量(g)



これまでの経緯

(背景)

日本輸血・細胞治療学会の調査(平成22年)

長崎県の総アルブミン製剤の使用量が**全国第2位**

(取組み)

平成26年3月10日

長崎県合同輸血療法委員会

パンフレット「アルブミン製剤の適正使用推進にご協力ください！」

長崎県福祉保健部薬務行政室

通知「アルブミン製剤の適正使用の推進について（協力依頼）」

長崎県合同輸血療法委員会

血液製剤等適正使用に関するアンケートの実施

(平成19年度、平成23年度、平成26～28年度)

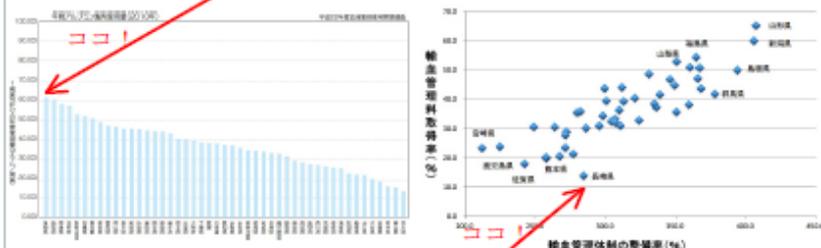
平成28年の使用量調査においても未だ上位にあり、継続して医療機関の取り組み状況、使用量の推移等を把握する必要がある。

アルブミン製剤の適正使用 推進にご協力ください！

「血液製剤の使用指針」(厚生労働省)に則った
計画的な使用が求められています。

長崎県の医療機関におけるアルブミン製剤使用量は、全国の都道府県の中でも
トップクラスです！

(2010年;左図、日本輸血・細胞治療学会調査による)



長崎県の医療機関の輸血管管理料取得率は、全国の都道府県の中でも
依然下位に甘んじています！

(2012年;右図、横軸の百分率の数値については、療法委員会設置、責任医師の配置等複数要因の換算値です)

アルブミン製剤を含む血液製剤の原料を国内自給する事は、我が国の「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(平成15年施行)の基本理念に掲げられています。

さらに、世界保健機構(WHO)も、平成22年総会において、倫理性と国際的公平性の観点から、血液製剤の原料血液を国内自給する為の必要な措置をとる事を加盟国に勧告しています。

しかし、本県では以前から、アルブミン製剤の使用量が多い状態が続いております。また、輸血管管理料の適正使用加算取得医療機関の数は非常に少ない現状です。

長崎県合同輸血療法委員会では、本県医療機関におけるアルブミン製剤の適正使用推進を重要課題の一つとらえ、実態調査をはじめとする様々な取り組みを展開して参ります。どうぞ、ご協力ほどお願い致します。

適応は正しいでしょうか？

「血液製剤の使用指針」(厚生労働省)には、アルブミン製剤使用の基本的な考え方が示されています。高張および等張製剤を正しく使い分けましょう。

血清アルブミン値を測定して、計画的に使用していますか？

正しい適応と計画的な使用の為に是非チェック願います。漫然と使用し続けることは避けましょう。使用2~3日で効果を評価してください。

説明と同意のうえで使用していますか？

血漿分画製剤は、献血血液を原料とした血液製剤です。不活化の効果を確認されていない血液媒介感染病原体のリスクを勘案し、使用に際して説明と同意が必要です。

アルブミン製剤の適正使用(要約)

詳細は、「血液製剤の使用指針」の内容をご覧ください！

目的

血漿膠質浸透圧を維持する事により循環血漿量を確保すること及び体腔内液や組織間液を血管内に移行させる事によって治療抵抗性の重度の浮腫を治療することにある。

適応

- 1 出血性ショック等
- 2 人工心臓を使用する心臓手術
- 3 肝硬変に伴う難治性腹水に対する治療
- 4 難治性の浮腫、肺水腫を伴うネフローゼ症候群
- 5 循環動態が不安定な血液透析等の体外循環施行時
- 6 凝固因子の補充を必要としない治療的血漿交換療法
- 7 重症熱傷
- 8 低タンパク血症に起因する肺水腫あるいは著明な浮腫が認められる場合
- 9 循環血漿量の著明な減少を伴う急性肺炎など

投与量の目安

必要投与量(g) = 期待上昇濃度(g/dL) × 循環血漿量(dL) × 2.5

- * 期待上昇濃度は、期待値と実測値との差
- * 循環血漿量は、0.4dL/kg

この量を、通常2~3日で分割投与する。

不適切な使用

- ◆ タンパク質源としての栄養補給
- ◆ 脳虚血
- ◆ 単なる血清アルブミン値の維持
- ◆ 末期患者への投与

本日の内容

1. はじめに
2. **平成29年度アンケート調査結果**
 - (1) **アンケート概要**
 - (2) アルブミン製剤の使用状況
 - (3) 輸血用血液製剤の使用状況
 - (4) 輸血業務の管理体制
 - (5) まとめ
3. 今後の対応方針

平成29年度アンケート調査の概要

目的: 本県におけるアルブミン製剤の使用量が全国的に非常に多いことから、平成26年3月に適正使用の協力依頼を通知した。その後の医療機関の取り組み状況等データを蓄積し、使用量等の評価・分析をしていくため平成28年におけるアルブミン製剤の使用量等について、アンケート調査を実施した。

調査期間: 平成29年10月27日～11月17日

調査対象とする期間: 平成28年中の使用実績等

対象医療機関数: 県内146施設(病院132、診療所14)

※平成27年度にアンケートを実施した医療機関

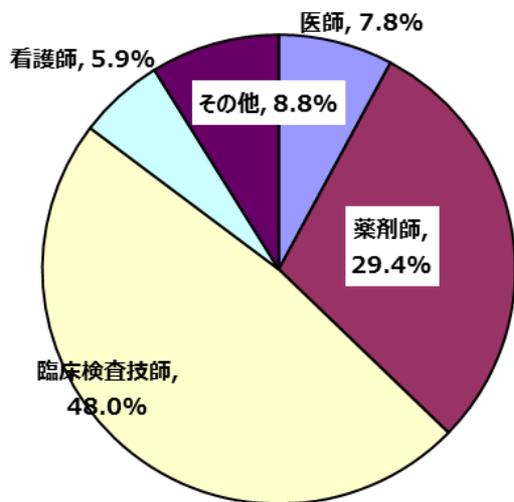
ただし、施設区分の変更や閉院等により施設数に変動あり。

回答医療機関数: 102施設

アンケート調査の回答数等

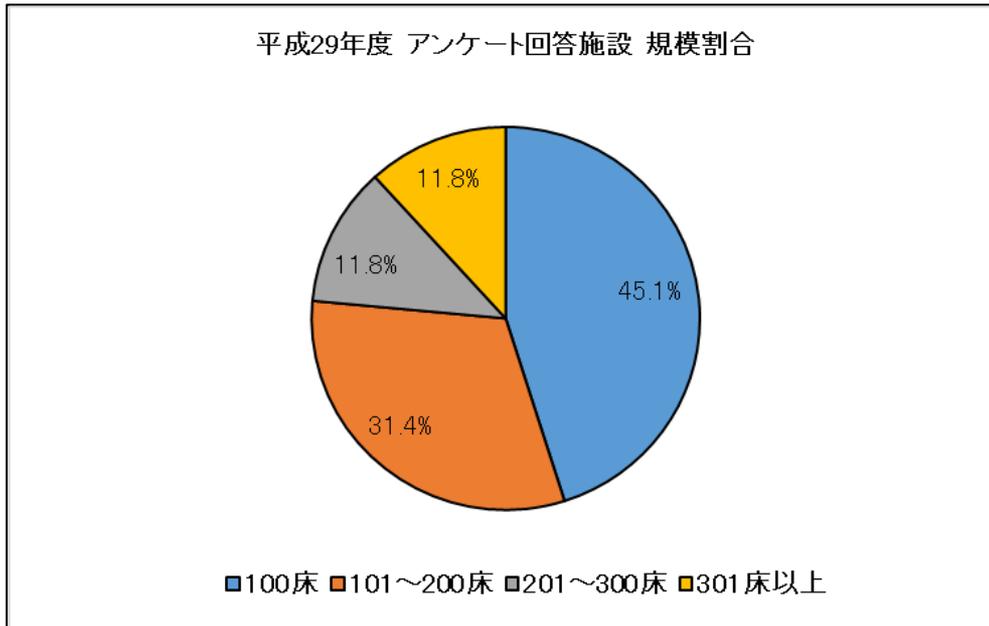
		平成19年度	平成23年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
対象施設数		147	127	300	150	148	146
有効回答数		121	103	161	128	113	102
回答率		82.3%	81.1%	53.7%	85.3%	76.4%	69.9%
回答者	医師	12人(9.9%)	11人(9.7%)	—	—	9人(8.0%)	8人(8.0%)
	薬剤師	39人(32.3%)	25人(24.3%)	—	—	33人(29.2%)	30人(29.4%)
	臨床検査技師	47人(38.8%)	53人(51.5%)	—	—	35人(31.0%)	49人(48.0%)
	看護師	8人(6.6%)	7人(6.8%)	—	—	5人(4.4%)	6人(5.9%)
	その他	15人(12.4%)	7人(6.8%)	—	—	31人(27.4%)	9人(8.8%)

平成29年度 アンケート回答者



回答があった医療機関の規模別分布

	平成19年度	平成23年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
100床 以下	48	39	97	58	46	46
101～200床	42	36	37	42	39	32
201～300床	14	11	13	14	15	12
301床 以上	17	17	14	14	13	12
合 計	121	103	161	128	113	102



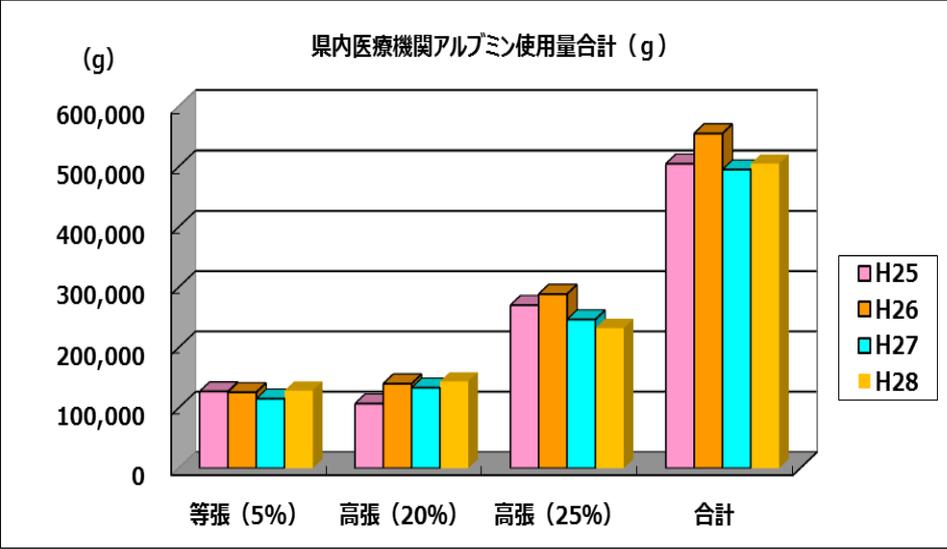
本日の内容

1. はじめに
2. **平成29年度アンケート調査結果**
 - (1) アンケート概要
 - (2) アルブミン製剤の使用状況**
 - (3) 輸血用血液製剤の使用状況
 - (4) 輸血業務の管理体制
 - (5) まとめ
3. 今後の対応方針

アルブミン製剤の使用量

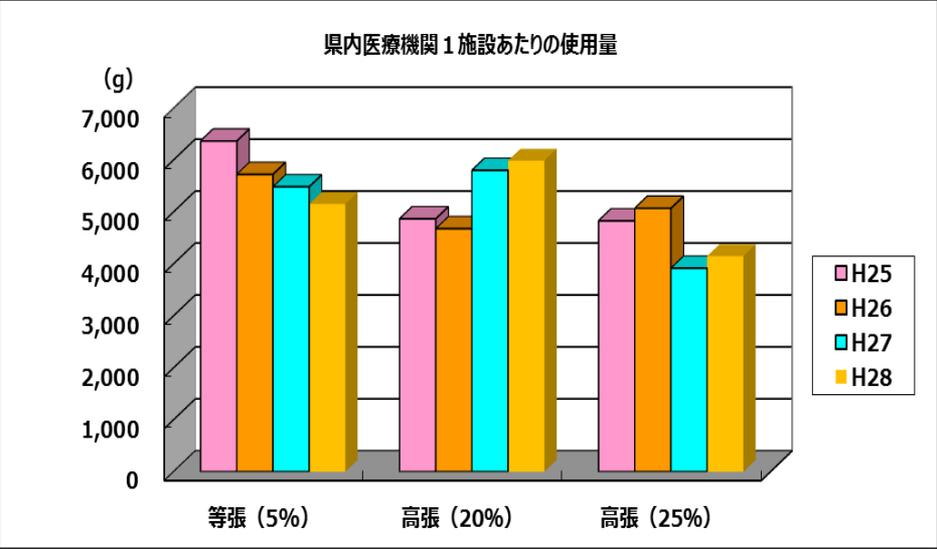
【県内医療機関アルブミン使用量合計(g)】

	H25	H26	H27	H28	前年比(%)
等張(5%)	127,275	125,925	115,125	128,763	111.8%
高張(20%)	107,094	140,312	133,406	143,865	107.8%
高張(25%)	270,463	288,963	246,700	232,325	94.2%
合計	504,832	555,200	495,231	504,953	102.0%



【県内医療機関1施設あたりの使用量(g)】

	H25	H26	H27	H28	前年比(%)
等張(5%)	6,364	5,724	5,482	5,151	94.0%
高張(20%)	4,868	4,677	5,800	5,987	103.2%
高張(25%)	4,830	5,070	3,916	4,149	105.9%



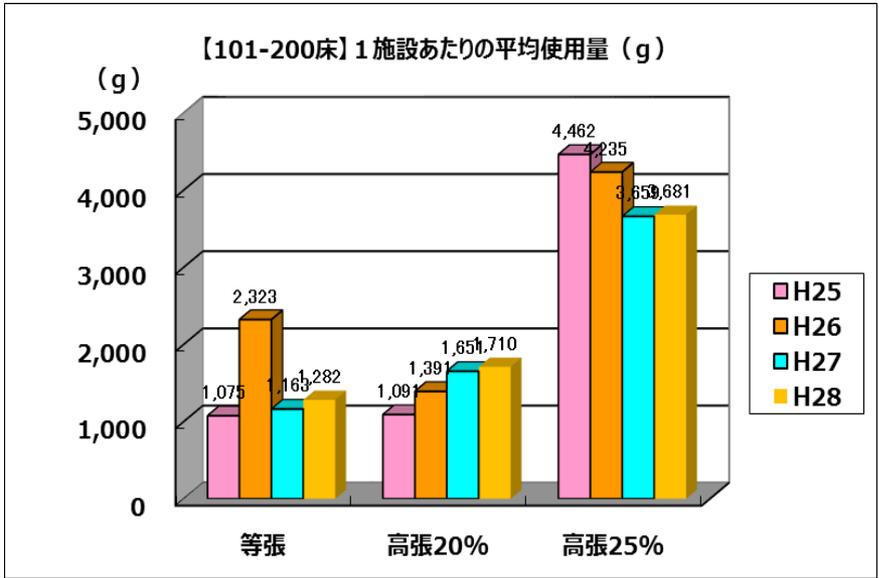
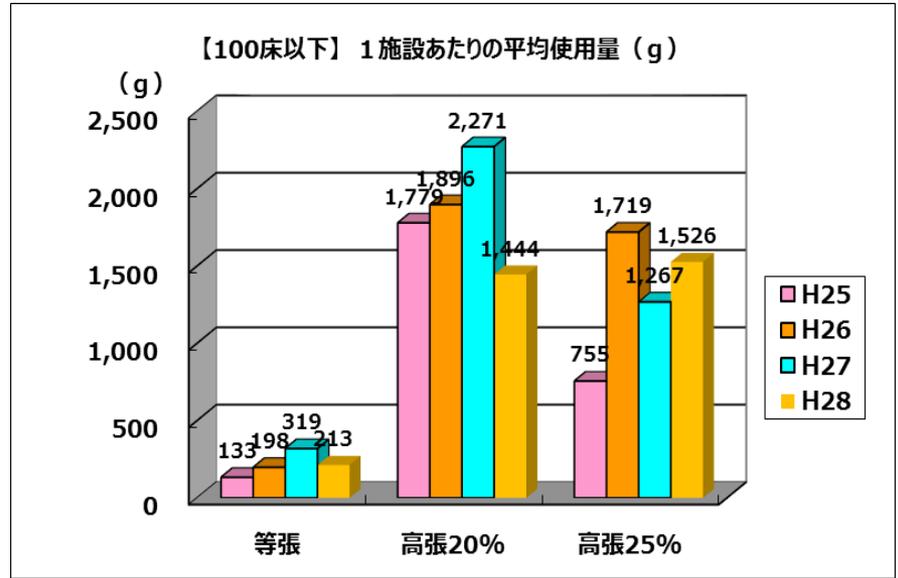
病床規模別 1施設あたりのアルブミン製剤使用量①

【100床以下】

	H25	H26	H27	H28
等張	133	198	319	213
高張20%	1,779	1,896	2,271	1,444
高張25%	755	1,719	1,267	1,526

【101床～200床】

	H25	H26	H27	H28
等張	1,075	2,323	1,163	1,282
高張20%	1,091	1,391	1,651	1,710
高張25%	4,462	4,235	3,659	3,681



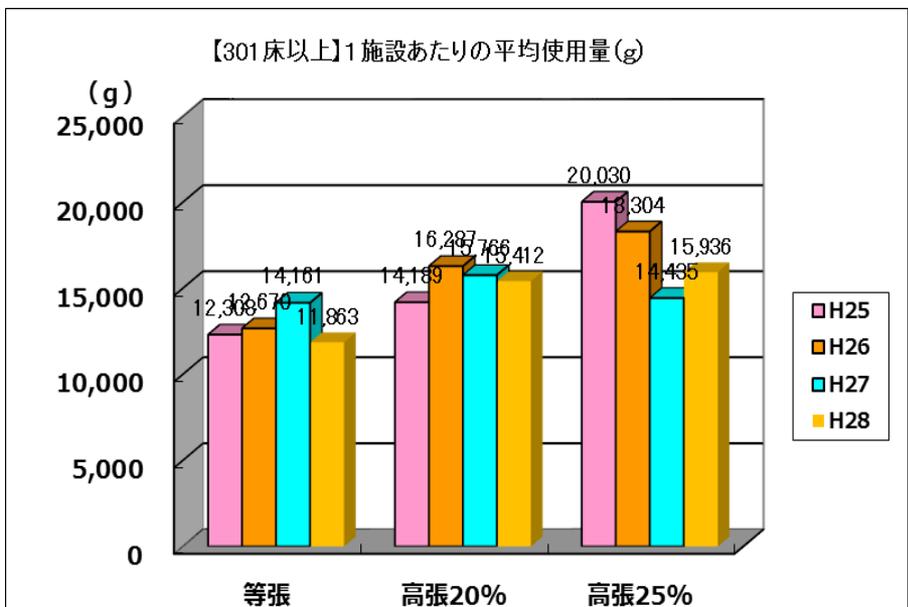
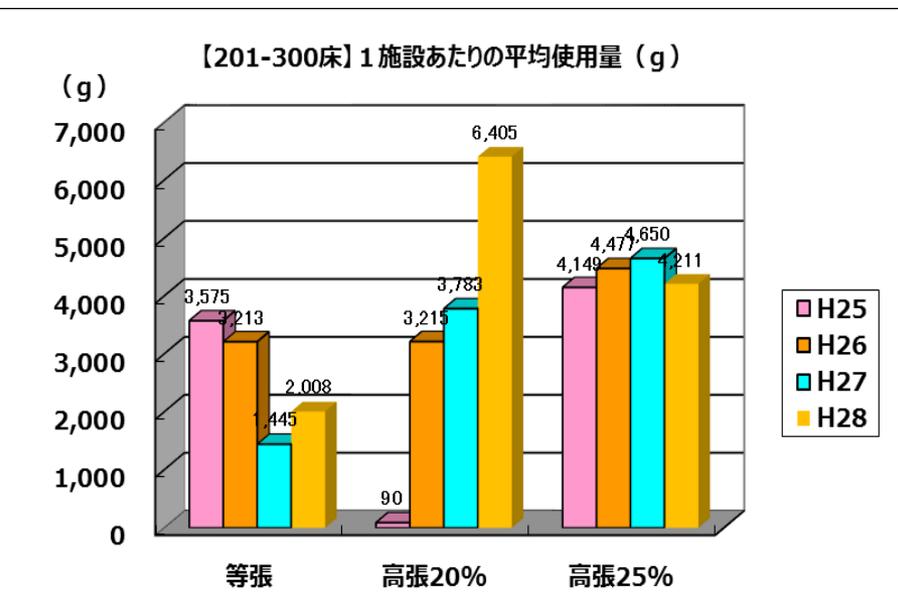
病床規模別 1施設あたりのアルブミン製剤使用量②

【201床～300床】

	H25	H26	H27	H28
等張	3,575	3,213	1,445	2,008
高張20%	90	3,215	3,783	6,405
高張25%	4,149	4,477	4,650	4,211

【301床以上】

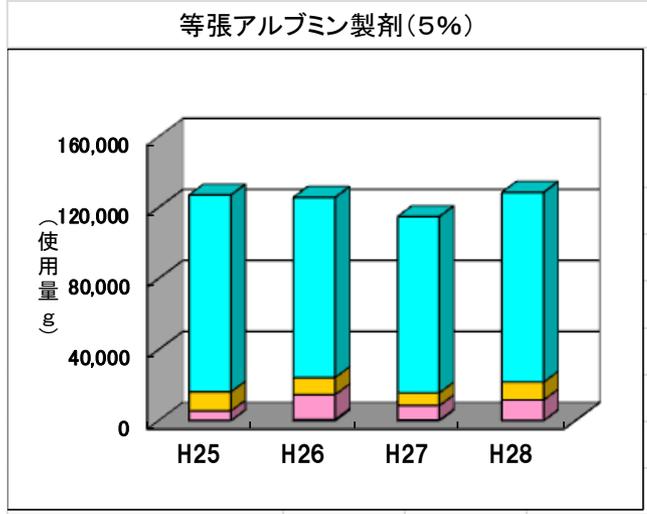
	H25	H26	H27	H28
等張	12,308	12,670	14,161	11,863
高張20%	14,189	16,287	15,766	15,412
高張25%	20,030	18,304	14,435	15,936



1 病床あたりのアルブミン製剤使用量トップ10

等張アルブミン製剤病床あたりの使用量			高張アルブミン製剤病床あたりの使用量		
順位	病床規模	1病床あたりの使用量(g)	順位	病床規模	1病床あたりの使用量(g)
1位	301床以上	77.51	1位	100床以下	325.25
2位	101～200床	35.13	2位	100床以下	125.44
3位	301床以上	23.21	3位	101～200床	100.89
4位	301床以上	20.29	4位	100床以下	64.19
5位	301床以上	19.23	5位	301床以上	64.00
6位	201～300床	16.54	6位	301床以上	60.92
7位	301床以上	14.64	7位	301床以上	58.63
8位	201～300床	14.12	8位	301床以上	56.25
9位	101～200床	12.16	9位	101～200床	51.08
10位	100床以下	9.15	10位	101～200床	47.91
使用している25施設の平均値:		6.34	使用している79施設の平均値:		5.86

各アルブミン製剤 病床規模別使用量の割合

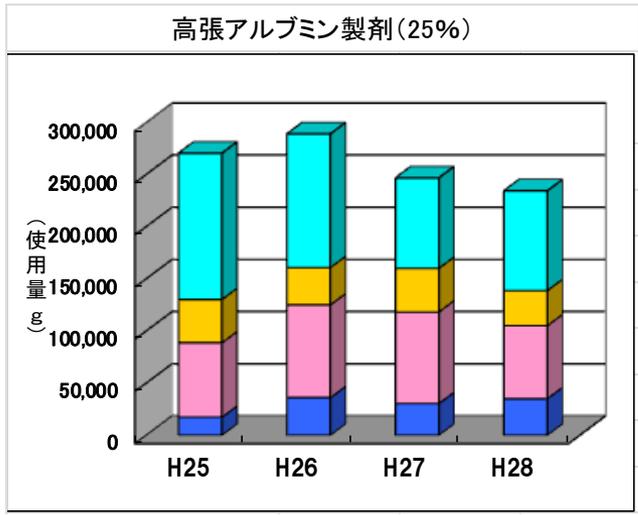
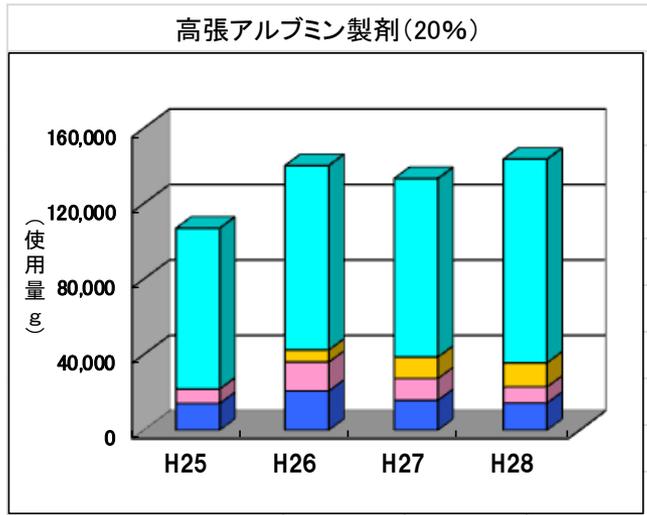


【200床以下の施設が占める割合】

等張製剤: 9.3%

高張製剤(20%): 17.2%

高張製剤(25%): 45.2%

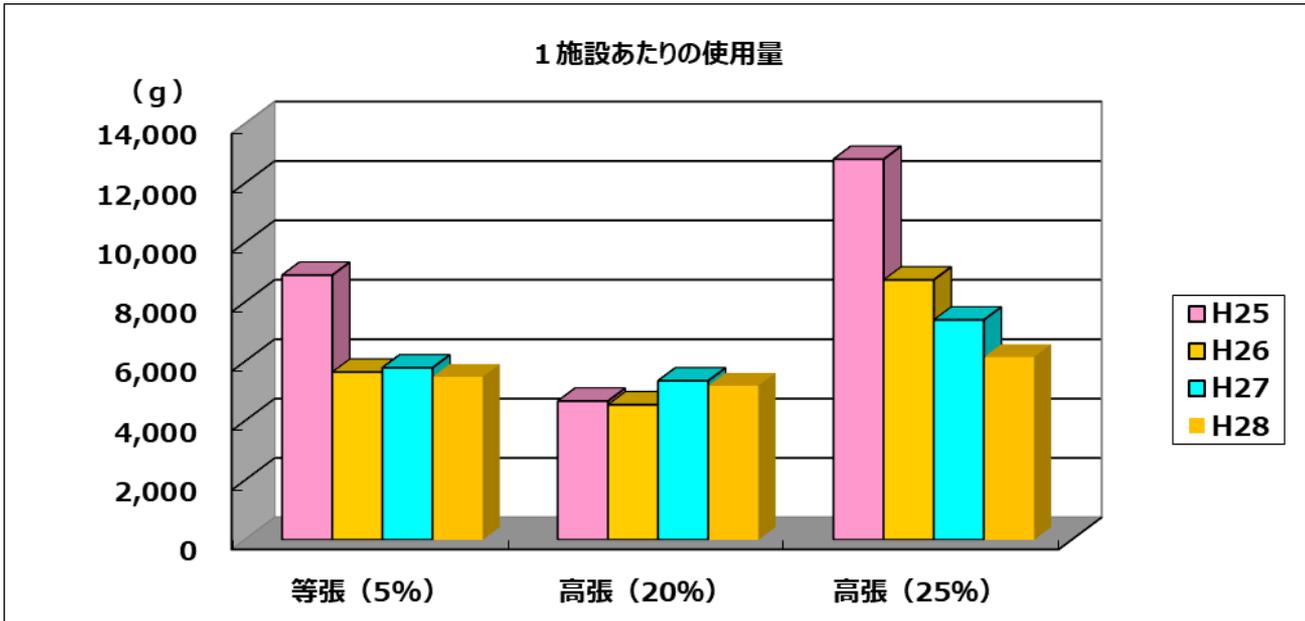


■ 100床以下 ■ 101~200床 ■ 201~300床 ■ 301床以上

輸血管管理料取得施設のアルブミン製剤使用状況

【1施設あたりのアルブミン使用量(g)】

	H25	H26	H27	H28	前年比(%)
施設数	17	21	19	22	—
等張(5%)	8,911	5,647	5,792	5,486	95%
高張(20%)	4,671	4,549	5,355	5,186	96.8%
高張(25%)	12,814	8,751	7,405	6,154	83.1%



輸血管管理料取得施設におけるアルブミン製剤使用量の比較①

※平成28年高張アルブミン製剤の病床あたりの使用量が多い順に表示

※ は病床あたり高張アルブミン使用量前年比増

 は減

No.	施設番号	病床数	アルブミン(計) (g)				5%アルブミン (g)				20%アルブミン (g)				25%アルブミン (g)				高張 病床あたり (g)				輸血管管理料				適正使用加算				
			H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25
1	医療機関1	301床以上	211,452	104,579	105,726	114,908	85,325	60,163	58,400	62,938	56,114	44,416	47,326	51,970	0	0	0	0	65.10	51.53	54.90	64.00	I	I	I	I					
2	医療機関2	101-200床	16,863	16,625	10,863	11,300	0	0	0	0	0	0	6,000	0	12,288	16,625	4,863	11,300	109.71	148.44	96.99	56.78	II	II	I	II					
3	医療機関3	101-200床	23,750	16,988	18,700	14,863	3,263	4,750	5,050	6,288	0	0	0	0	8,800	12,238	13,650	8,575	49.16	68.37	76.26	43.09	II	II	II	II					
4	医療機関4	301床以上	77,700	66,513	43,088	46,875	9,225	15,175	12,188	12,050	0	0	0	0	68,475	51,338	30,900	34,825	115.28	86.43	52.02	42.89	II	II	II	II					
5	医療機関5	201-300床	17,813	14,313	13,950	13,150	6,813	5,563	2,863	4,200	0	0	0	0	11,000	8,750	11,088	8,950	43.31	34.45	43.65	31.96	II	II	II	II				○	
6	医療機関6	201-300床	-	11,013	7,638	9,063	-	938	538	1,088	-	0	0	0	-	10,075	7,100	7,975	-	49.15	34.63	28.48	-	II	II	II	-				
7	医療機関7	301床以上	52,513	39,750	35,125	36,878	16,138	9,900	12,263	14,925	0	0	0	1,140	36,375	29,850	22,863	20,813	56.57	46.42	35.56	27.04	II	II	II	II					
8	医療機関8	301床以上	21,175	19,775	19,663	19,688	1,113	0	1,513	0	0	0	0	0	16,075	19,775	18,150	19,688	45.93	56.50	51.86	24.25	II	II	II	II	○	○			
9	医療機関9	301床以上	44,470	24,583	22,235	24,848	4,350	6,413	6,525	5,963	13,300	18,170	15,710	18,885	0	0	0	0	42.90	58.61	50.68	23.26	II	II	II	II					
10	医療機関10	301床以上	31,038	20,314	24,750	25,853	3,875	5,875	6,300	7,513	0	13,376	18,450	18,340	27,163	1,063	0	0	74.62	39.67	50.69	22.59	II	II	II	II					
11	医療機関11	201-300床	6,800	5,325	6,475	5,963	0	0	0	0	0	0	0	0	6,800	5,325	6,475	5,963	32.69	25.60	31.13	21.29			II	II				○ ○	
12	医療機関12	201-300床	7,200	9,525	7,525	5,400	700	538	50	88	0	0	0	0	6,500	8,988	7,475	5,313	25.39	35.11	29.20	18.97		II	II	II					

輸血管管理料取得施設におけるアルブミン製剤使用量の比較②

※平成28年高張アルブミン製剤の病床あたりの使用量が多い順に表示 ※ は病床あたり高張アルブミン使用前年比増 は減

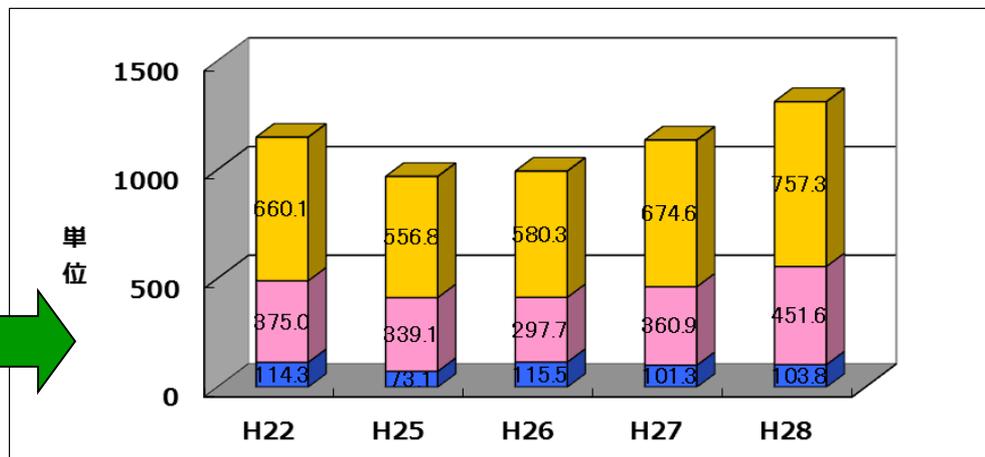
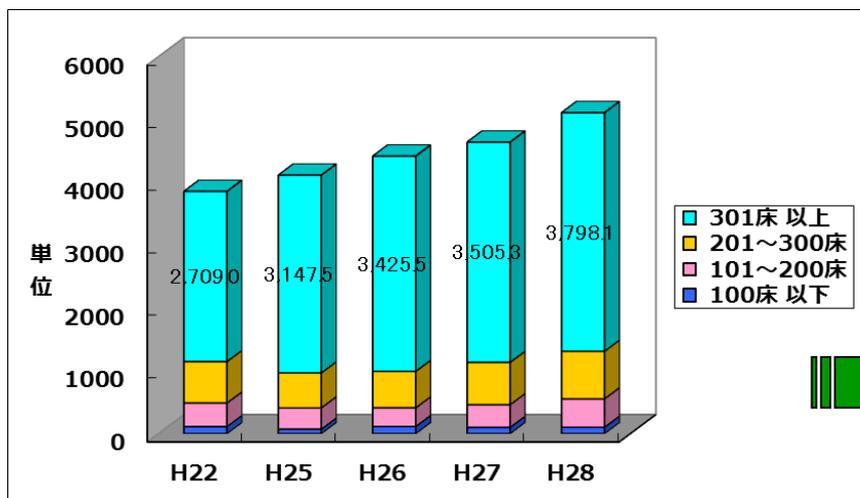
No.	施設番号	病床数	アルブミン(計) (g)				5%アルブミン (g)				20%アルブミン (g)				25%アルブミン (g)				高張 病床あたり (g)				輸血管管理料				適正使用加算			
			H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28	H25	H26	H27	H28
13	医療機関13	101-200床	-	11,628	0	4,500	-	4,838	0	750	-	6,790	0	3,750	-	0	0	0	-	35.18	0.00	18.84	-	II	II	II	-			
14	医療機関14	301床以上	20,305	17,625	15,428	13,100	4,063	1,300	1,938	1,200	0	0	2,940	11,900	19,163	16,325	10,550	0	54.75	46.64	38.54	14.66	II	II	II	I				○
15	医療機関15	101-200床				2,625				0				0				2,625				13.19			II					○
16	医療機関16	201-300床	6,900	6,138	6,075	6,713	3,138	3,138	2,425	3,050	0	0	0	0	3,763	3,000	3,650	3,663	13.25	10.56	12.85	13.08	II	II	II	II				
17	医療機関17	101-200床	1,220	780	950	2,090	0	0	0	0	1,220	780	950	2,090	0	0	0	0	11.73	7.50	9.13	10.50	II	II	II	II			○	
18	医療機関18	301床以上	5,250	-	-	6,338	150	-	-	650	0	-	-	0	5,100	-	-	5,688	12.35	-	-	7.00	II	-	-	II		-	-	
19	医療機関19	301床以上	11,508	11,400	9,650	5,030	825	0	0	0	8,770	11,400	9,650	5,030	1,913	0	0	0	32.08	34.23	28.98	6.19	II	II	II	II			○	○
20	医療機関20	101-200床	480	570	-	810	0	0	-		480	570	-	810	0	0	-	0	3.43	4.07	-	4.07	II	-	II					
21	医療機関21	100床以下	-		720	180	-	0	0	0	-	1530	720	180	-	0	0	0	-	15.45	7.27	1.80	-	II	II	-			○	○
22	医療機関22	201-300床	3,100	2,000	-	13	0	0	-	0	0	0	-	0	3,100	2,000	-	13	13.25	8.55	-	0.04	II	II	-	II	○	○	-	○

本日の内容

1. はじめに
2. **平成29年度アンケート調査結果**
 - (1) アンケート概要
 - (2) アルブミン製剤の使用状況
 - (3) 輸血用血液製剤の使用状況**
 - (4) 輸血業務の管理体制
 - (5) まとめ
3. 今後の対応方針

1施設あたりの使用量(赤血球製剤)

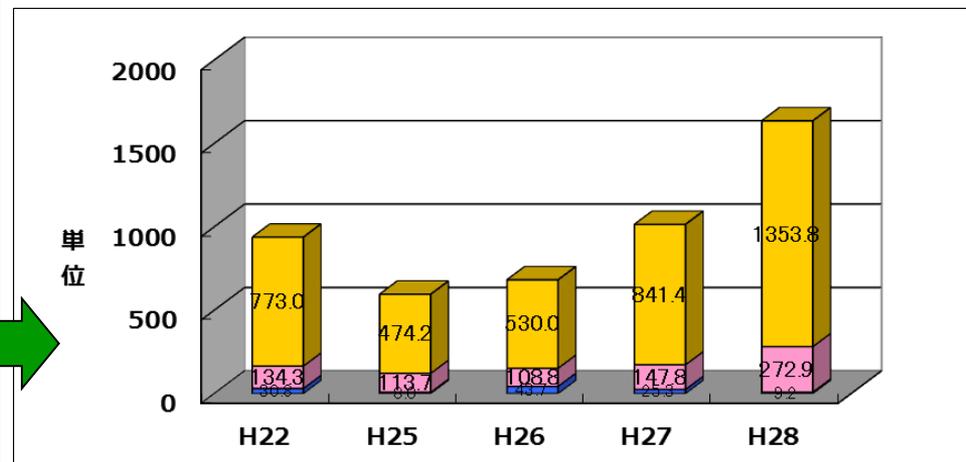
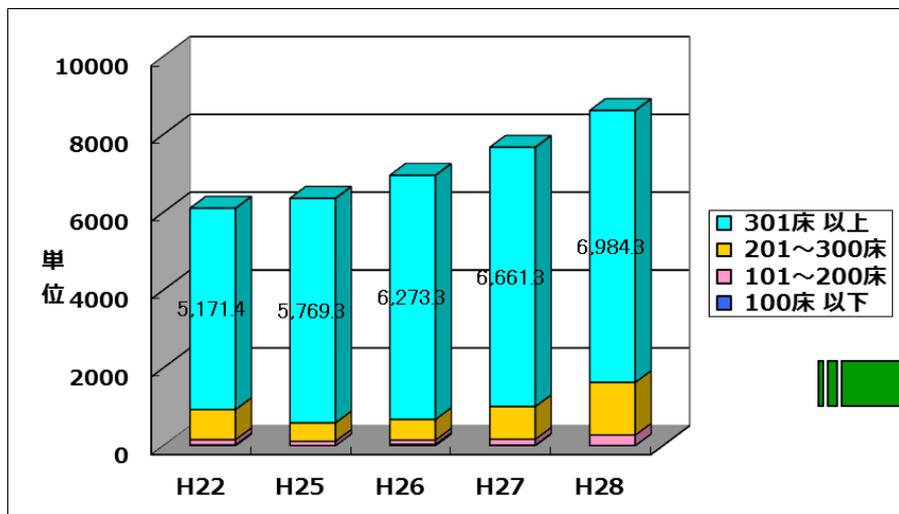
病床数	H22	H25	H26	H27	H28
100床以下	114.3	73.1	115.5	101.3	103.8
101～200床	375.0	339.1	297.7	360.9	451.6
201～300床	660.1	556.8	580.3	674.6	757.3
301床以上	2,709.0	3,147.5	3,425.5	3,505.3	3,798.1
平均値	698.0	551.5	577.7	658.6	784.2



300床以下拡大

1施設あたりの使用量(血小板製剤)

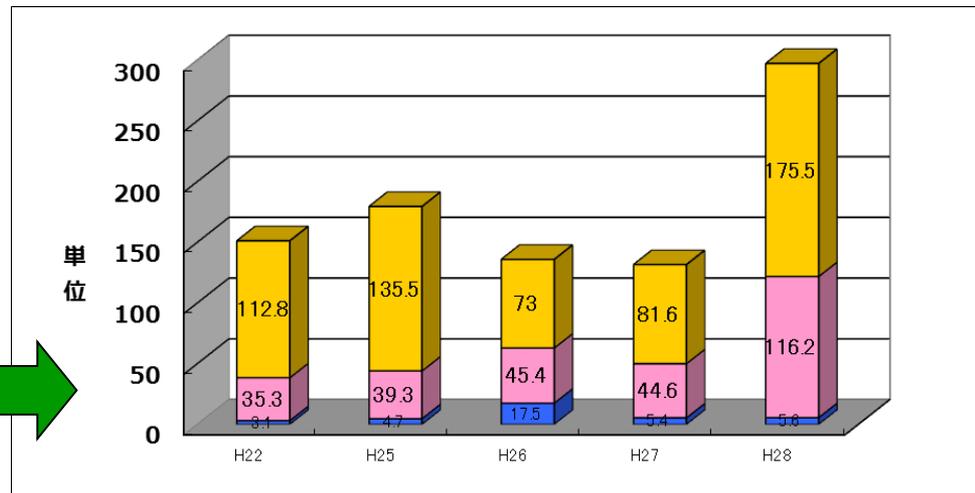
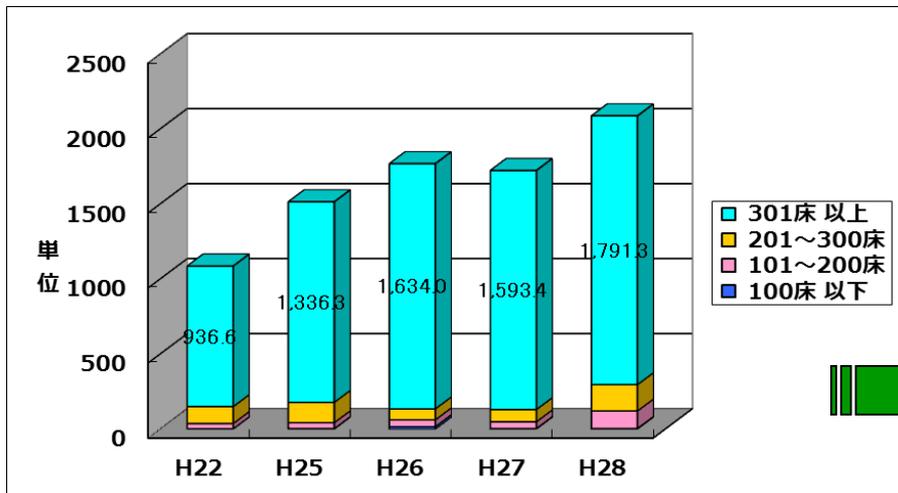
病床数	H22	H25	H26	H27	H28
100床以下	30.8	8.0	43.7	25.3	9.2
101~200床	134.3	113.7	108.8	147.8	272.9
201~300床	773.0	474.2	530.0	841.4	1353.8
301床以上	5,171.4	5,769.3	6,273.3	6,661.3	6,984.3
平均値	1,006.4	748.3	774.5	942.1	1,106.9



300床以下拡大

1施設あたりの使用量(血漿製剤)

病床数	H22	H25	H26	H27	H28
100床以下	3.1	4.7	17.5	5.4	5.6
101~200床	35.3	39.3	45.4	44.6	116.2
201~300床	112.8	135.5	73	81.6	175.5
301床以上	936.6	1,336.3	1,634.0	1,593.4	1,791.3
平均値	187.1	189.8	202.1	212.1	257.3



300床以下拡大

輸血用血液製剤 廃棄率トップ10

【赤血球製剤】

順位	病院規模	年間使用量(単位)	廃棄率	輸血療法委員会
1位	100床以下	0	100.00%	無
2位	100床以下	22	15.38%	無
3位	101床～200床	438	12.75%	有
4位	100床以下	44	8.33%	有
5位	100床以下	70	7.89%	無
6位	101床～200床	2,038	6.94%	有
7位	101床～200床	492	6.46%	有
8位	301床以上	1,732	5.36%	有
9位	100床以下	248	5.34%	無
10位	101床～200床	654	4.66%	無

【血小板製剤】

順位	病院規模	年間使用量(単位)	廃棄率	輸血療法委員会
1位	100床以下	0	100.00%	無
2位	100床以下	10	50.00%	無
3位	301床以上	290	3.33%	有
4位	101床～200床	990	2.94%	有
5位	201～300床	340	2.86%	有
6位	301床以上	690	2.82%	有
7位	301床以上	1,840	2.13%	有
8位	201～300床	780	1.27%	有
9位	301床以上	4,270	0.47%	有
10位	301床以上	36,055	0.41%	有

【血漿製剤】

順位	病院規模	年間使用量(単位)	廃棄率	輸血療法委員会
1位	101床～200床	0	100.00%	有
2位	201～300床	58	14.71%	有
3位	201～300床	142	8.97%	有
4位	101床～200床	92	8.00%	有
5位	101床～200床	58	6.45%	有
6位	100床以下	50	3.85%	有
7位	201～300床	122	3.17%	有
8位	201～300床	602	2.27%	有
9位	201～300床	178	2.20%	有
10位	301床以上	2,610	2.14%	有

本日の内容

1. はじめに

2. **平成29年度アンケート調査結果**

(1) アンケート概要

(2) アルブミン製剤の使用状況

(3) 輸血用血液製剤の使用状況

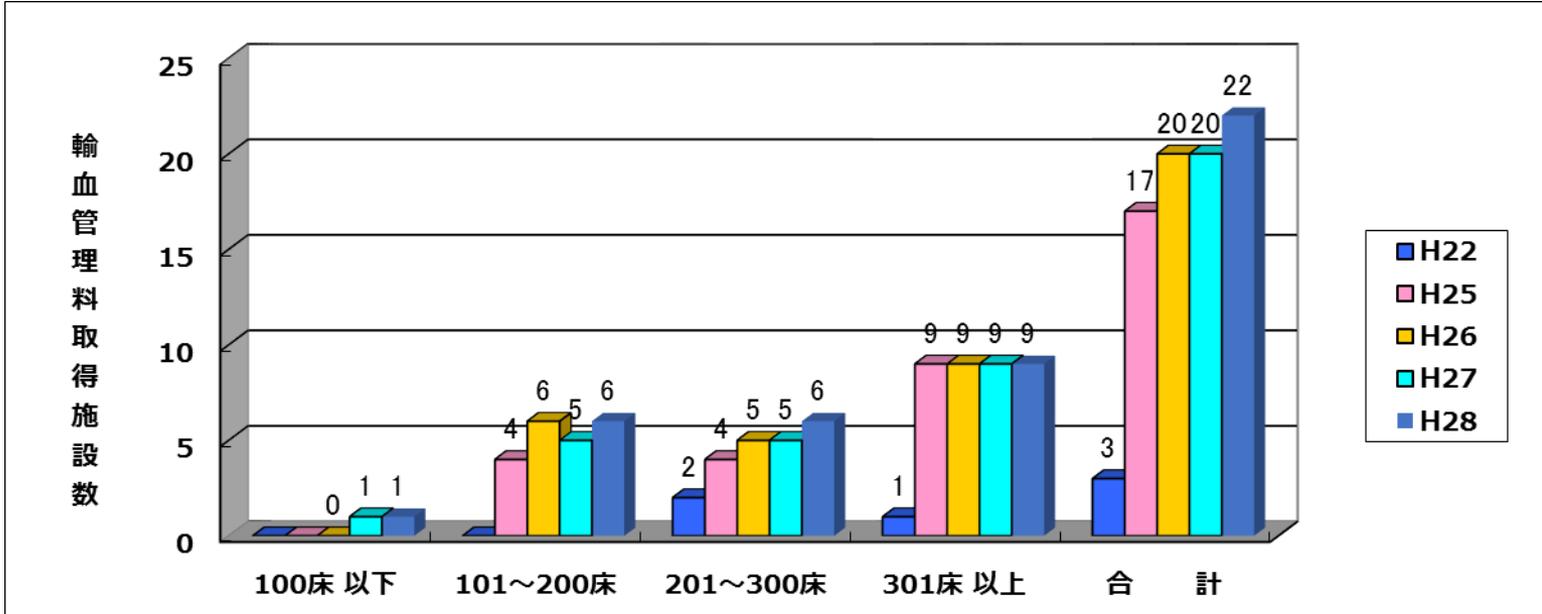
(4) 輸血業務の管理体制

(5) まとめ

3. 今後の対応方針

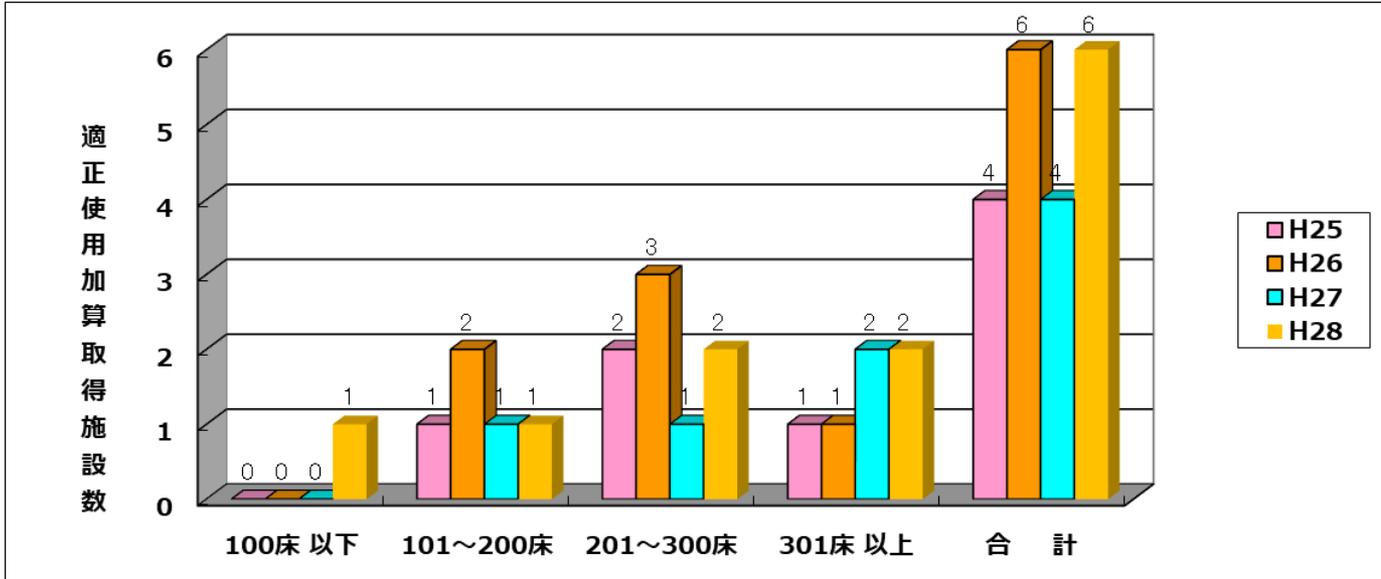
輸血管管理料の取得状況

病床数	平成22年					平成25年					平成26年					平成27年					平成28年				
	施設数	管理料		未取得	回答なし	施設数	管理料		未取得	回答なし	施設数	管理料		未取得	回答なし	施設数	管理料		未取得	回答なし	施設数	管理料		未取得	回答なし
		I	II				I	II				I	II				I	II				I	II		
100床以下	38	0	0	37	1	61	0	0	59	2	51	0	0	45	5	43	0	1	41	2	39	0	1	38	0
		0.0%	0.0%	100.0%	2.6%		0.0%	0.0%	96.7%	3.3%		0.0%	0.0%	88.2%	9.8%		0.0%	2.3%	95.3%	4.7%		0.0%	2.6%	97.4%	0.0%
101~200床	36	0	0	36	0	34	0	4	30	0	39	0	6	31	2	35	1	4	30	0	28	0	6	22	0
		0.00%	0.00%	100.00%	0.0%		0.0%	11.8%	88.2%	0.0%		0.0%	15.4%	79.5%	5.1%		2.9%	11.4%	85.7%	0.0%		0.0%	21.4%	78.6%	0.0%
201~300床	10	1	1	8	0	13	0	4	9	0	13	0	5	6	2	14	0	5	9	0	12	0	6	6	0
		10.0%	10.0%	80.0%	0.0%		0.0%	30.8%	69.2%	0.0%		0.0%	38.5%	46.2%	15.4%		0.0%	35.7%	64.3%	0.0%		0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
301床以上	17	0	1	16	0	14	1	8	4	1	12	1	8	3	0	12	1	8	3	0	12	2	7	1	0
		0.0%	5.9%	94.1%	0.0%		7.1%	57.1%	28.6%	7.1%		8.3%	66.7%	25.0%	0.0%		8.3%	66.7%	25.0%	0.0%		16.7%	58.3%	8.3%	0.0%
合計	101	1	2	97	1	122	1	16	102	3	115	1	19	85	9	104	2	18	83	2	91	2	20	67	0
		1.0%	2.0%	97.0%	1.0%		0.8%	13.1%	83.6%	2.5%		0.9%	16.5%	73.9%	7.8%		1.9%	17.3%	79.8%	1.9%		2.2%	22.0%	73.6%	0.0%



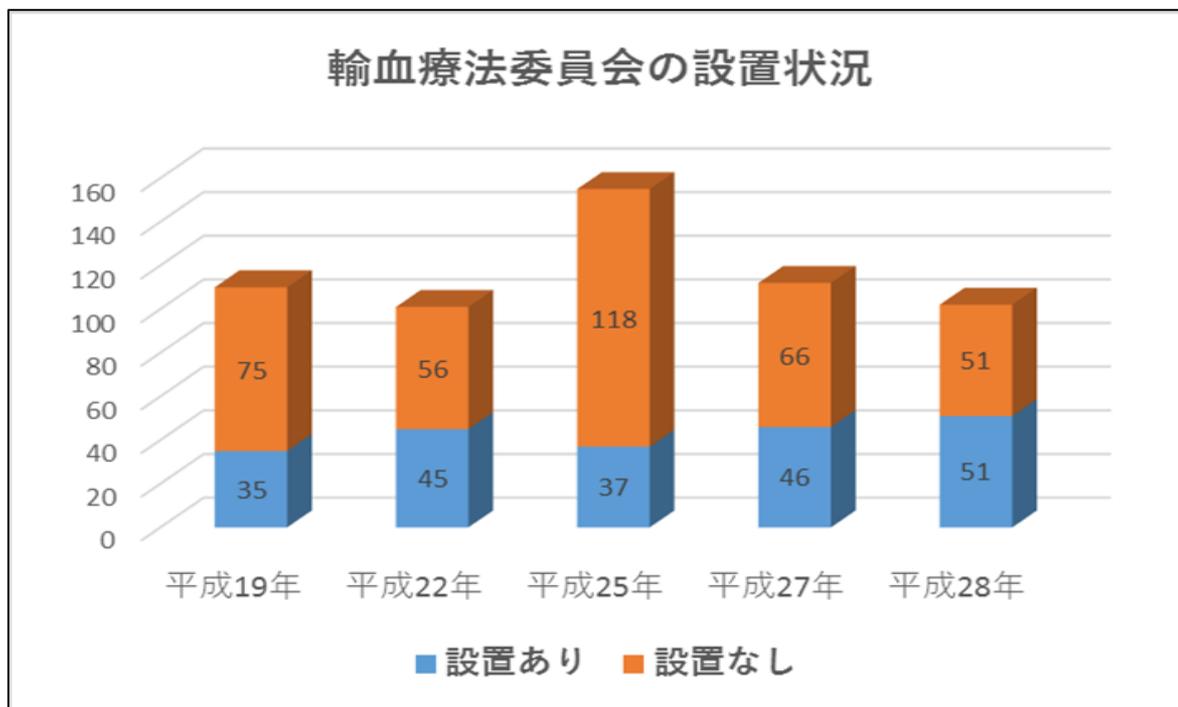
適正使用加算の取得状況

病 床 数	平成25年				平成26年				平成27年				平成28年			
	施設数	取得あり	取得なし	回答なし	施設数	取得あり	取得なし	回答なし	施設数	取得あり	取得なし	回答なし	施設数	取得あり	取得なし	回答なし
100床 以下	61	0 0.0%	59 96.7%	2 3.3%	51	0 0.0%	45 88.2%	6 11.8%	43	0 0.0%	40 93.0%	3 7.0%	39	1 2.6%	38 97.4%	0 0.0%
101～200床	34	1 2.9%	33 97.1%	0 0.0%	39	2 5.1%	33 84.6%	3 7.7%	35	1 2.9%	34 97.1%	0 0.0%	28	1 3.6%	27 96.4%	0 0.0%
201～300床	13	2 15.4%	11 84.6%	0 0.0%	13	3 23.1%	9 69.2%	2 15.4%	14	1 7.1%	11 78.6%	0 0.0%	12	2 16.7%	10 83.3%	0 0.0%
301床 以上	14	1 7.1%	12 85.7%	1 7.1%	12	1 8.3%	11 91.7%	0 0.0%	12	2 16.7%	9 75.0%	1 8.3%	12	2 16.7%	10 83.3%	0 0.0%
合 計	122	4 3.3%	115 94.3%	3 2.5%	115	6 5.2%	98 85.2%	11 9.6%	104	4 3.8%	94 90.4%	4 3.8%	91	6 6.6%	85 93.4%	0 0.0%



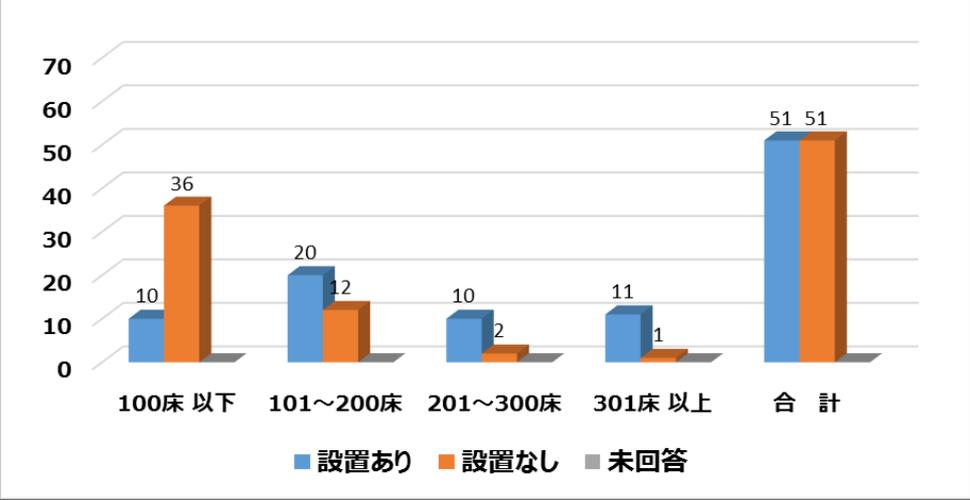
輸血療法委員会の設置状況

	平成19年	平成22年	平成25年	平成27年	平成28年
設置あり	35	45	37	46	51
設置なし	75	56	118	66	51
未回答	0	0	6	1	
合計	110	101	161	113	102



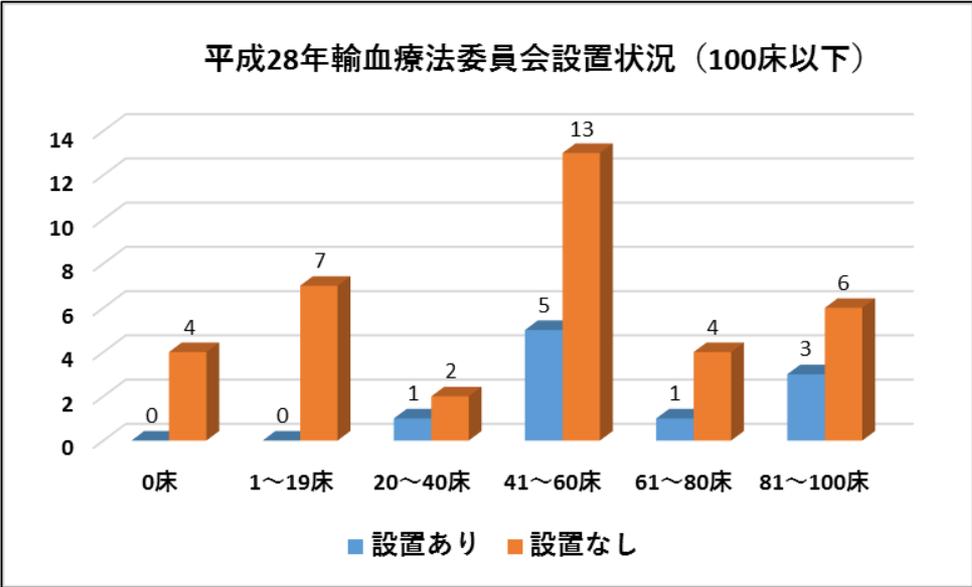
輸血療法委員会の設置状況（病床規模別）

平成28年輸血療法委員会の設置状況

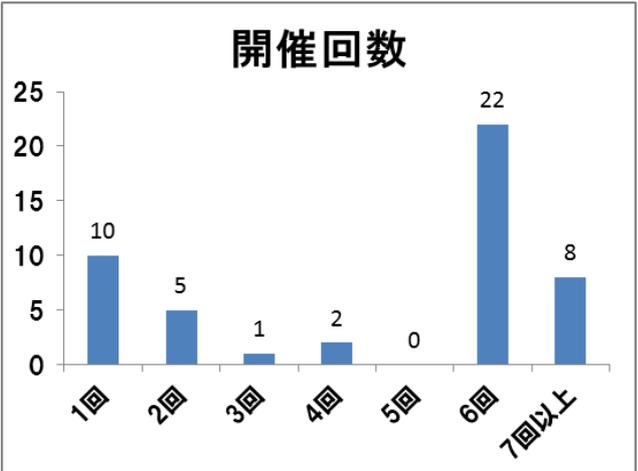
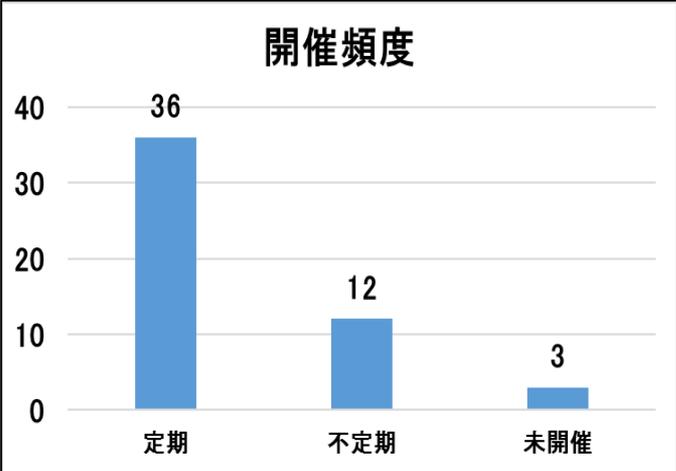


100床以下 詳細

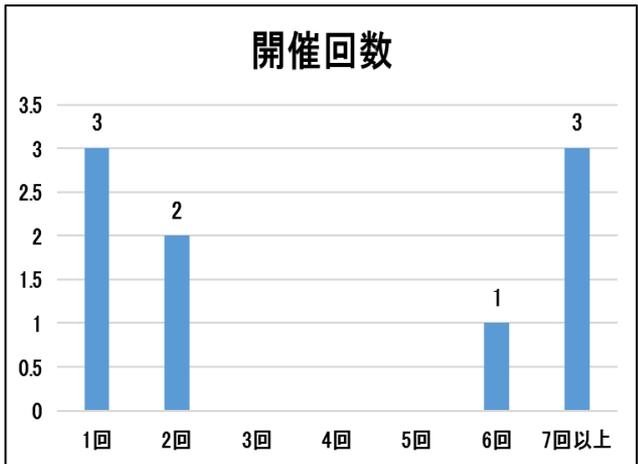
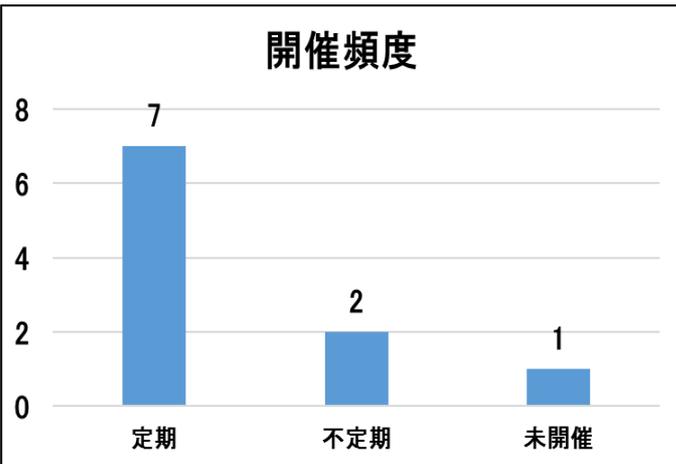
平成28年輸血療法委員会設置状況（100床以下）



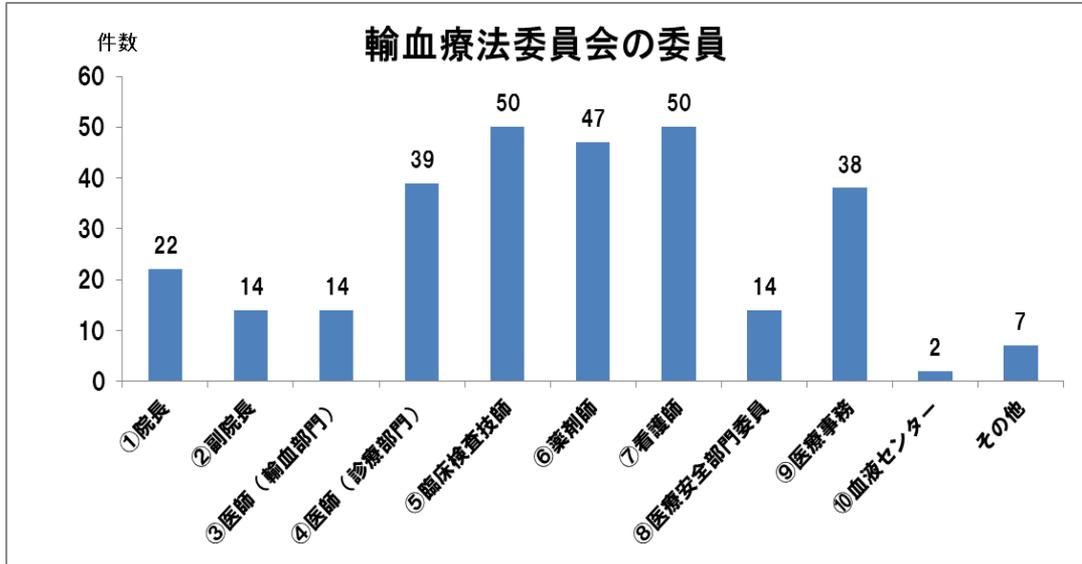
輸血療法委員会の開催頻度



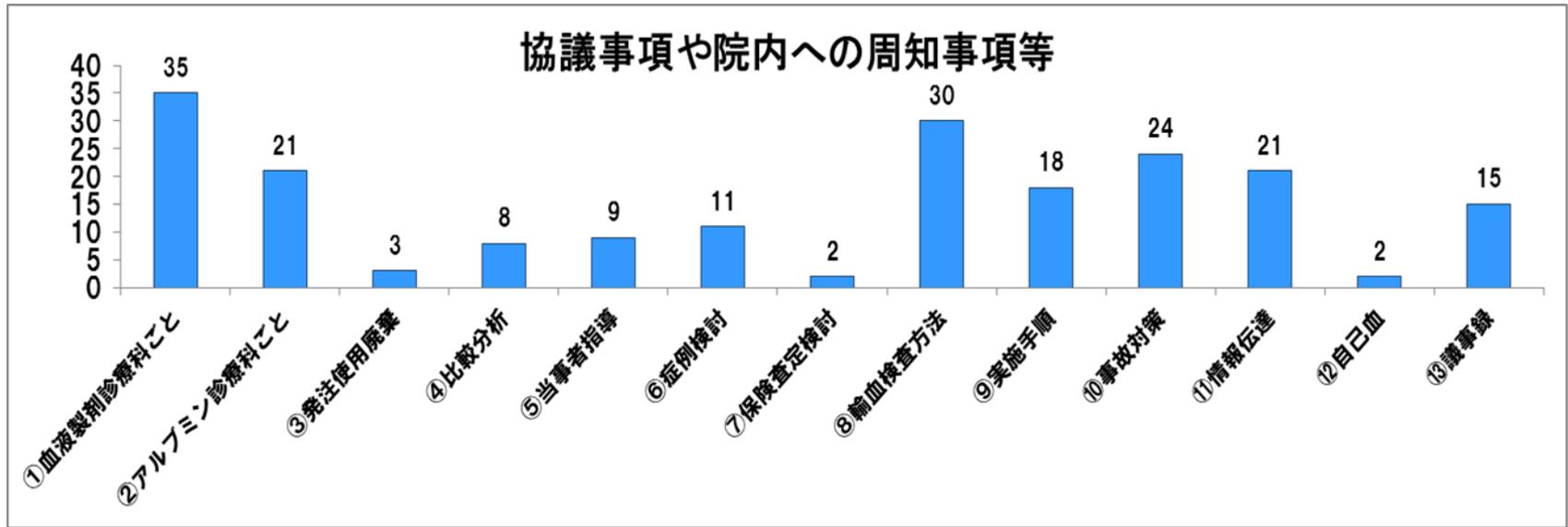
100床以下 詳細



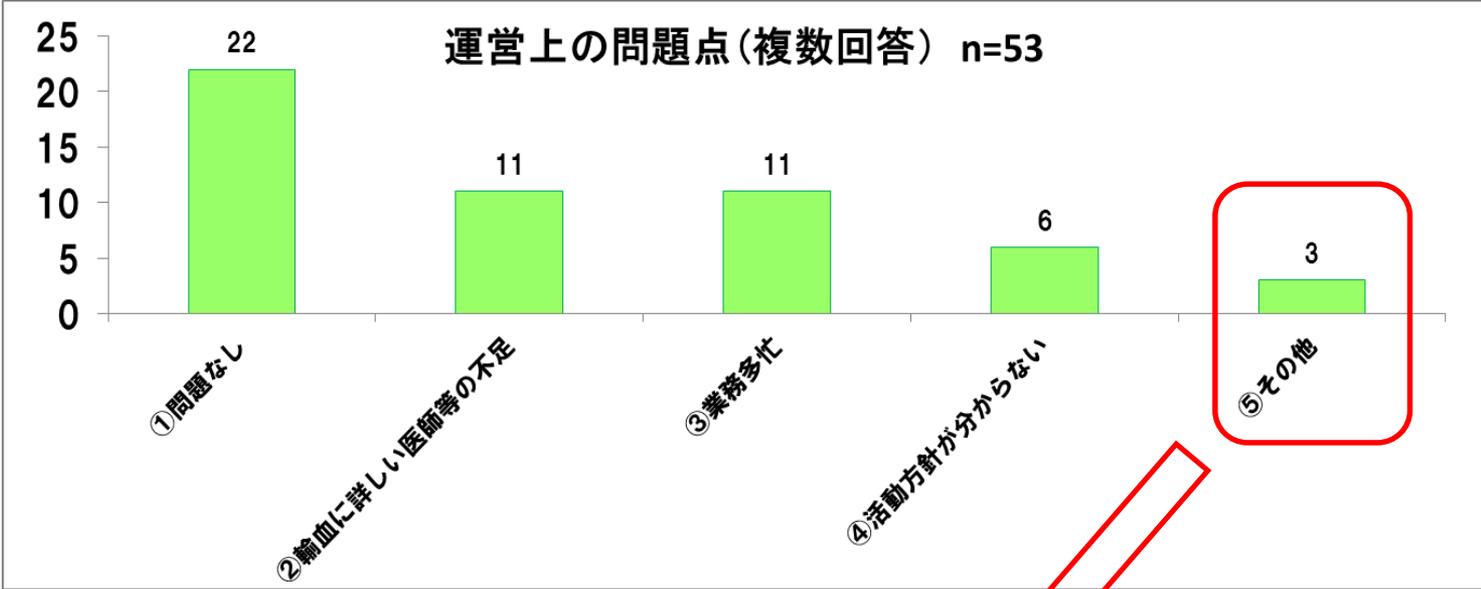
輸血療法委員会の構成メンバー



輸血療法委員会での協議事項や院内への周知事項等

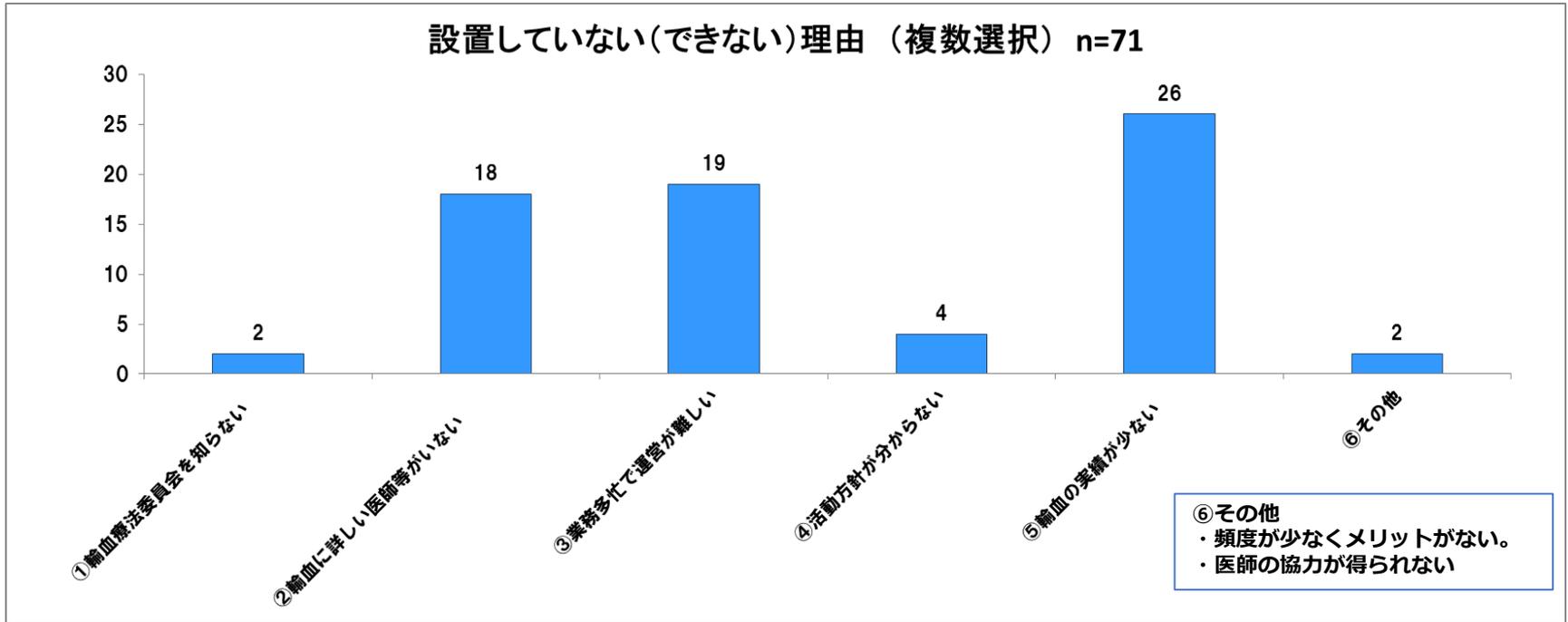
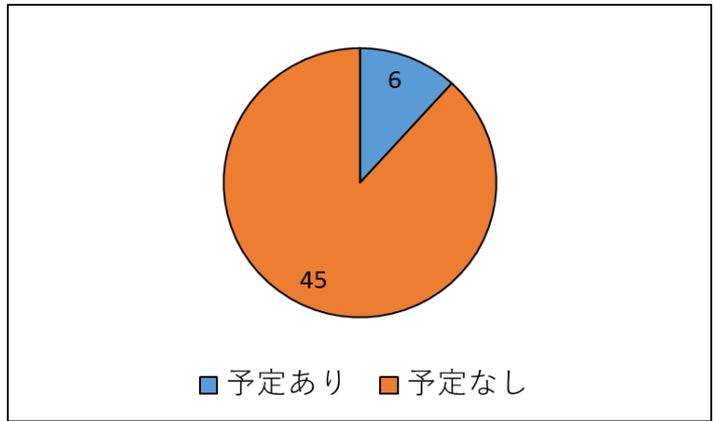


輸血療法委員会の運営に際して問題点等

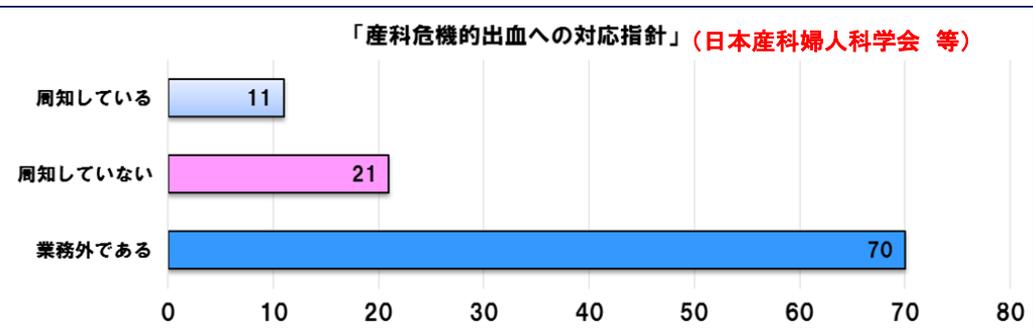
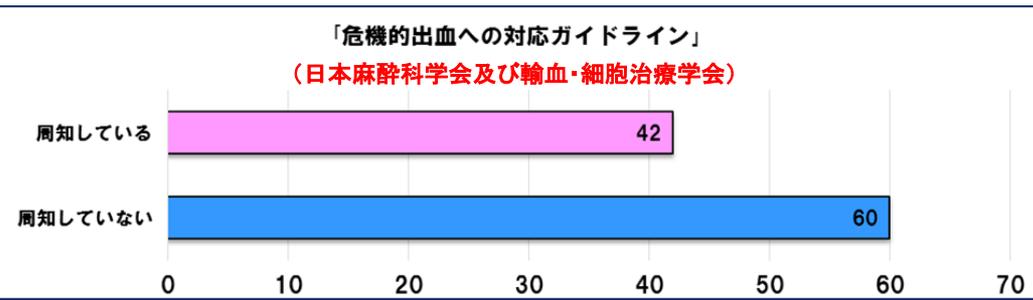
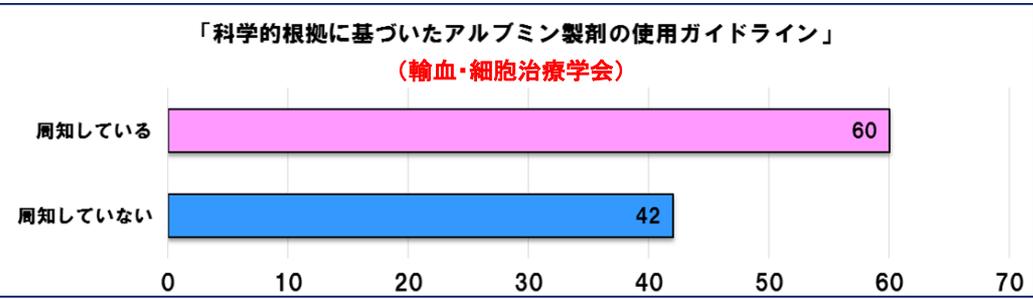
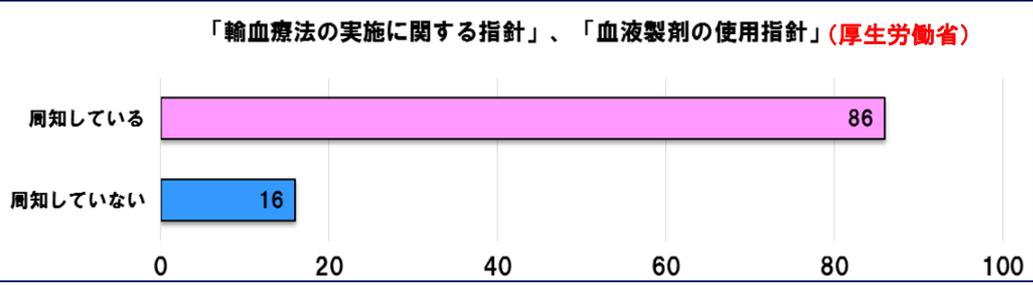


- ・情報の周知や院内監査の実施を充実させる必要がある。
- ・輸血製剤及びアルブミンの使用頻度の高い部署の医師の出席が少ない。
- ・業務多忙な医師の出席率が悪い
- ・不規則抗体があるときにどうしたらよいかわからない。
- ・検査技師の不足

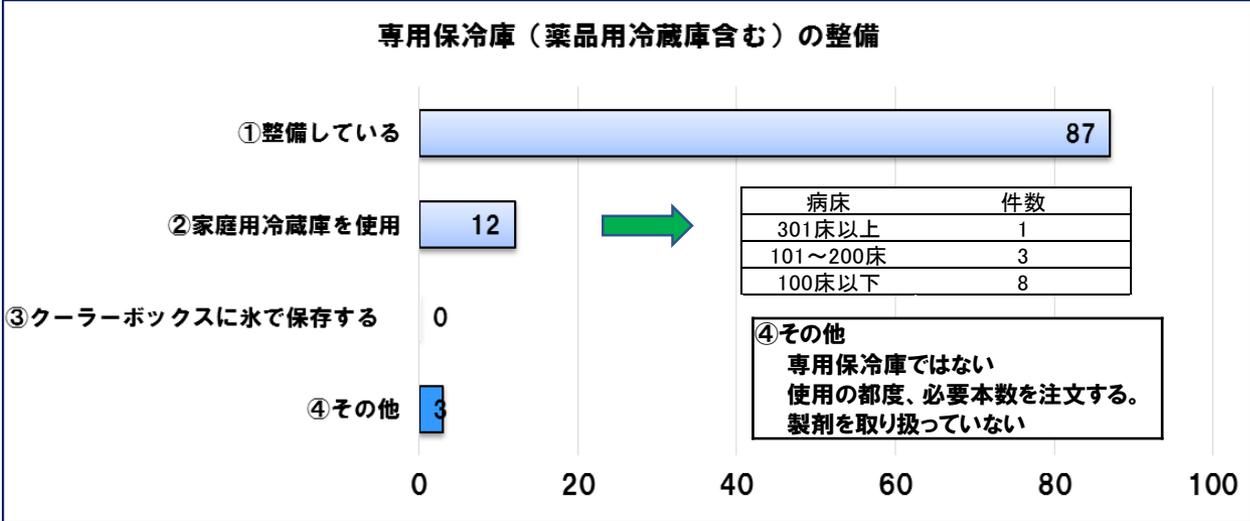
今後輸血療法委員会の設置予定



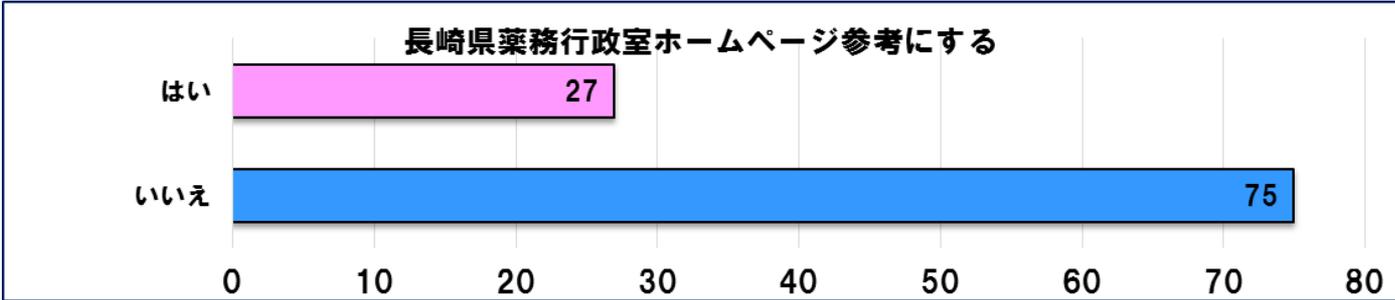
各指針・ガイドライン等の周知状況



赤血球製剤の保存は、輸血療法の実施に関する指針に記載されている2～6℃の専用保冷库（薬品用冷蔵庫含む）の整備状況



長崎県合同輸血療法委員会のホームページ（長崎県薬務行政室ホームページ内）を参考にしたことがありますか。



(長崎県福祉保健部薬務行政室ホームページ内)

<http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iyakuhin/blood/128497.html>



色合い [白](#) [黒](#) [青](#) 文字サイズ [標準](#) [拡大](#) [Google™カスタム検索](#) [検索](#)

- [ホーム](#)
- [目的で探す](#)
- [分類で探す](#)
- [組織で探す](#)
- [地方機関で探す](#)
- [カレンダーで探す](#)
- [地域で探す](#)

[ホーム](#) > [分類で探す](#) > [福祉・保健](#) > [医薬品・医療機器](#) > [血液事業\(献血の推進、骨髄ドナー登録など\)](#) > 血液製剤の使用適正化について(合同輸血療法委員会)

[このページを印刷する](#)

- メニュー
- 薬務行政情報
- 薬務行政室の入札情報
- 医薬品等の安全対策、安定供給、適正使用の推進
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)の使用促進
- 薬物乱用防止対策・危険ドラッグ情報
- 医療用麻薬等の取扱い・監視指導等
- 毒物劇物営業者の監視指導
- 血液事業(献血の推進、骨髄ドナー登録など)
- 薬剤師免許・登録販売者制度
- 薬局・製薬業・販売業等の許可、指導
- 長崎県職員(薬剤師)の募集

血液製剤の使用適正化について(合同輸血療法委員会)

B! 0 [いいね!](#) 0 [ツイート](#)

2017年11月6日更新

長崎県内における適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すことを目的に、平成22年4月に「長崎県合同輸血療法委員会」を設立して、使用実態調査などの事業を実施しています。当該委員会の活動状況等をお知らせします。

平成29年度輸血療法に係るアンケート調査について(協力依頼)

当該委員会では、アルブミン製剤等の使用適正化を目的とし、平成26年3月にアルブミン製剤の適正使用の推進について協力を依頼し、平成26年度から継続してアルブミン製剤の使用量等を把握しているところです。今年度においてもデータを蓄積し評価・分析していくため、平成28年におけるアルブミン製剤の使用量等について、アンケート調査を実施することとしました。

対象となっている医療機関におかれましては、当該趣旨にご理解をいただくとともに、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

アンケート調査票(エクセル版)

[回答用紙](#)、[平成28年度血液製剤の使用状況等調査\[Excelファイル/59KB\]](#)を、ご利用ください。エクセルを保存する場合、ファイル名に医療機関名称をご記入ください。

平成28年度輸血療法に係るアンケート実施結果

平成28年度に実施しました、平成27年度の血液製剤の使用状況等調査にご協力いただきありがとうございました。ご回答いただきました113医療機関のデータを取りまとめましたので、ご活用ください。

[平成28年度血液製剤等使用状況及び管理状況アンケート結果\[Excelファイル/417KB\]](#)

平成28年度血液製剤使用適正化推進セミナーの開催状況

長崎県赤十字血液センターとの共同開催による「長崎県輸血研修会」の中の第1部として「血液製剤使用適正化推進セミナー」を開催しました。

院内の輸血療法委員会の立上げや支援に関して長崎県合同輸血療法委員会に期待するもの(自由記載)

- ・使用指針の内容(エビデンスの評価)がわかりにくい、査定等含めて判りやすく教えて欲しい。

本日の内容

1. はじめに

2. 平成29年度アンケート調査結果

(1) アンケート概要

(2) アルブミン製剤の使用状況

(3) 輸血用血液製剤の使用状況

(4) 輸血業務の管理体制

(5) まとめ

3. 今後の対応方針

まとめ

- ・1施設あたりのアルブミン製剤の使用量は依然と高く、特に高張製剤では昨年度からの増加がみられた。
- ・一部の施設でアルブミン25%製剤から20%製剤へ切り替える傾向がみられた。
- ・輸血管理料を取得している医療機関においてはアルブミン製剤の1施設当たりの使用量に減少傾向がみられた。特に高張製剤(25%)では大きな減少がみられた。
- ・等張アルブミン製剤は301床以上の医療機関、高張アルブミン製剤(25%)は200床以下の医療機関で多く使用される傾向がみられた。
- ・赤血球製剤、血小板製剤、血漿製剤の1施設当たりの使用量は依然と高く、増加傾向にある。
- ・輸血療法委員会を設置する医療機関の割合が増加傾向にあり、今年度アンケートに回答した医療機関の半数が設置していることが分かった。
- ・200床以下の中小規模医療機関において、輸血療法委員会設置の有無に関わらず、廃棄率が高い傾向がみられた。
- ・各医療機関の輸血療法委員会の立ち上げや運営に関して、医師や臨床検査技師等の専門職の人手不足、業務多忙で実施できない、委員会の活動指針が分からない等の問題点が多くみられた。

本日の内容

1. はじめに
- 2. 平成29年度アンケート調査結果**
 - (1) アンケート概要
 - (2) アルブミン製剤の使用状況
 - (3) 輸血用血液製剤の使用状況
 - (4) 輸血業務の管理体制
 - (5) まとめ
- 3. 今後の対応方針**

今後の対応方針

1. アルブミン製剤、輸血用血液製剤の使用量は依然として高く、今後も継続してデータを蓄積していく必要がある。
2. 他医療機関のアルブミン製剤等の使用量と比較検討できるよう、アンケート協力医療機関に対し調査結果をフィードバックする。
3. 各医療機関(特に中小医療機関)の輸血療法委員会の立ち上げや運営に対する支援のため、運営マニュアルのモデル等を示していく。
4. 九州各県合同輸血療法委員会での情報も取り入れつつ、血液製剤の使用適正化に向け、取り組んでいく。